

「違い」を、 「チカラ」に。

国や価値観の違いを乗り越える



2017年6月15日(木) 大阪産業創造館イベントホールにて、PREXシンポジウムを開催しました。左から:西島 大輔 氏(株式会社中農製作所取締役社長)、毛 丹青 氏(作家、神戸国際大学教授)、松山 大耕 氏(妙心寺退蔵院副住職)、久保田 真弓 氏(関西大学総合情報学部教授)、吉富 志津代 氏(特別活動法人多言語センターFACIL 理事長、名古屋外国語大学教授)。

肌で感じ、

パネリスト
西島 大輔 氏
株式会社 中農製作所
取締役社長

パネリスト
吉富 志津代 氏
特別活動法人 多言語センターFACIL 理事長
名古屋外国語大学教授

自分と違うものを排除する心の壁を乗り越え、 「違い」を“チカラ”に変えられないだろうか？

企業のグローバル化に！

社員がそれぞれに成長していくことが会社の発展につながる—それが中小企業の魅力です。

一方で、優秀な人材が入ってこない、労働環境が厳しく雇用が長続きしない、海外調達加速による国内の注文量の減少、海外企業とのコスト競争、などの経営課題を抱えています。

当社では、技能実習生や従業員として、ベトナム人を受入れてから15年。3年前にベトナムに進出し、今年ようやく黒字化が見えてきました。

今では、ベトナム人も、会社の一員として成長し、会社の発展に貢献してくれています。

ベトナム人社員がいなかったら、私が海外進出しよう、といっても日本人社員は納得しなかったのではないかと思います。ベトナム進出が、一緒に働くベトナム社員の夢だったから、日本人社員も、力を貸してくれました。日本人とベトナム人が、お互いの夢を共有したから、結果として、ベトナムでのビジネスの道が始まったと実感しています。

(西島 大輔 氏)

日本の閉塞感を打開するには？

日本社会が行き詰っていることにみんな気づいているのでしょうか。日本人は、よくしたい、よくなりたという意欲が低くなり、このままでよいと思っているという印象を受けます。

日本は、これまで経済優先で、効率を求めてきましたが、結果、大切なものを忘れてきたのではないのでしょうか。

PREXの研修を通じて、日本側が忘れていた大切なことに、研修参加者から逆に、気付かされることも多いのかもしれない。

生きる意欲や変化へのモチベーションを失いかけている日本人が、これからの道を探すためには違う価値観から学ぶしかありません。「共創」ということが言われます。相手が言っていることが、自分と違うと思って、まず耳を貸すこと、そこから得られる気づきが絶対に必要です。

日本の皆さんには、今の状況に危機感を感じて、積極的に違うものに触れてほしいです。

(吉富 志津代 氏)

心で知る。

パネリスト
毛丹青氏
作家、神戸国際大学教授

コーディネーター
久保田真弓氏
関西大学 総合情報学部教授

国が違う。価値観が違う。違うからこそ 新しい発見があり、違うからこそ、補い合える。

まずは違いに気づくこと。

日本に留学し、生活するようになり、30年になります。今年55才で、中国にいた時間より、日本にいる時間の方が長くなりました。

2011年に、中国語で日本の生活文化を紹介する雑誌「知日」を発刊しました。日本を知るというコンセプトで、5年間で41号、トータルで300万部を売り上げました。

現在は、在日中国人の目を通して見た日本の伝統や文化を伝える新刊誌『在日本』を発刊し中国の多くの若者に支持されています。また、村上春樹の小説や又吉直樹の「火花」を中国で出版し、これも大きな反響がありました。日本の大学には、日本の良さに気付いていない、外を知りたくもない、という学生が多くいます。日本には、中国の人々の心をひきつけるすばらしい生活文化や文学があることを知ってほしいです。

外と日本の違いに気づき、外に向けて日本の良さを発信することがビジネスになり、人と人の交流になり、国と国の信頼関係を作っていることを、なんとか伝えたいと思っています。

(毛丹青氏)

境界をつくるのは、人

「越境」ということばがあります。

人が、国籍、性別、障害のあるなしなどで線を引いているのです。境界を引き、境界の向こうは向こう、こちらはこちらでやるほうが楽と考える人が多いのですが、今はそんな時代ではありません。

では、どうすると「違い」を活かせるのでしょうか。簡単ではありませんが、ビジネス、異文化、人間関係、どの場面でも共通のゴールが見つかる。「違い」を活かすことができるのではないのでしょうか。

人工知能(AI)の進歩により、従来は人間にしかできなかった多くの仕事が、自動化されるといわれています。時代の転換点に突入している中で、私たち人間にどのようなスキルが必要なのでしょう。今回のシンポジウムの基調講演・松山大耕氏やパネリストからのお話によると、「疑問を持つ」、「対峙した人とコミュニケーションを図る」、「考えるチカラをつける」ということではないのでしょうか。

(久保田真弓氏)

私たちはパートナー。
自分たちの夢を
どのように実現しようか
話している。

違いをチカラに！経験談①



中農製作所で働くベトナム人社員

当社の従業員数は50名。うち20名がベトナム人で、社員であるエンジニアが15名、技能実習生は5名。2014年よりベトナムホーチミン市に駐在員事務所を設置した。代表・副代表としてベトナム社員2名を帰国させ法人化を進めており、今は現地のスタッフ8名が働いている。現場を任せているベトナム社員とは、常にコミュニケーションをとってきた。ベトナムでどのようにしていきたいか、日本の会社をどのようにしていきたいか話し、任せることで、経営者として成長してもらえた。社長と従業員という関係ではなく、パートナーとして双方でどのようにしていくか、自分たちの夢をどのように実現しようか話している。(西島 大輔氏 (株)中農製作所 取締役社長)

違いをチカラに！経験談②



外国人との仕事を通して、
多様な視点を知り、
寛容になることができた。

自分は日本生まれ日本育ち。日本しか知らない。しかし、アルゼンチン総領事館やボリビア総領事館で、外国人と繋がる仕事をしたことにより、多様な視点を知ってそれを楽しみ、寛容になることができた。日本であたり前だと思われていることがそうではなく、既存の規則も絶対的ではない。地域社会の中には、さまざまな人がいる。マイノリティの人たちに地域社会に参加してもらうことが、社会にある課題を解決することにつながる。無関心でなく、受入れ、認め合い、折り合いをつけていくことが求められる。

(吉富 志津代氏 (特活)多言語センターFACIL 理事長、名古屋外国大学教授)

人は人に会う
人は人を知る
人は人を思う
われわれが目指す
美しい世界。



違いをチカラに！経験談③

この写真は、中国の出版社主催の『火花』(又吉直樹／文春文庫)の中国語刊行記念イベントの様子だ。場所は、上海の建投書局で、約200人が集まった。中国と日本の政治関係はよくないかもしれないが、日本の文化を紹介した雑誌や日本文学の人気は驚くほど高い。なぜ、中国の若者が日本に関心を持つのか。日本は、他との違いを認識しなければならない。もっと外の世界を自分のテリトリーに入れていくべき。違いを知ることが、相手を知ること。違う発想を得ることにもなる。留学にいきたい日本人は少なく、授業でも日本人は黙っている。日本人は、知ることへの執着が弱まってきている。ここに危機感を感じる。(毛丹青氏 作家、神戸国際大学教授)

日本が持っている
寛容の精神が
違いを乗り越え、
世界を変える。

基調講演
パネルディスカッションへの
コメント



寺の長男として生まれたが、キリスト教の中高一貫校に通った。その後、異なる宗教の方と交流を持つ機会もあり、「違い」は、自分自身を深め、世の中に働きかけるモチベーションになった。今日のパネリストの話をきいて、違いを力にする過程には、何かを失う、もしくは、失いそうだという経験、そして一つの方に突き進む力があると思った。最近、無理にバランスをとろうとする人が多いが、どんなに立派でも、完全にバランスが取れているという人は見たことがない。いい具合のアンバランス、違いを受け入れざるを得ない経験、それが、違いを力にするポイントだと思った。(妙心寺退蔵院 松山大耕氏)＊松山氏の基調講演はPREXホームページに掲載。→<http://www.prex-hrd.or.jp>

「違い」を チカラに変えた 日々。



ラオス
シュンラモントリ・キングサイさん

違いを知ることによって、比較し、ベストを学ぶ。

「JICA中小企業振興のための経営強化・金融支援研修」に参加して、中小企業支援は各国で異なる段階にあるのだと再認識しました。例えば、マレーシアやタイのように信用保証制度を有している国もあれば、まだ制度が確立していない国もあり、フィリピンには制度はあるものの、上手く機能していないということを知りました。トルクメニスタンなどの資源が豊富で豊かな国は、政府は投資に財源を割くことができ、私の国とは支援の規模や重視されている部門が異なります。各国の状況によって、中小企業支援のためにとられている政策は本当に多様です。今回の研修で、日本には中小企業振興のスキームがいくつもあることが分かりました。他の研修員の国、そしてもちろん日本の政策を参考にしながら、私の国であるラオスに最も適する政策を考えていきたいと思います。

新しく会う人々、特に異なる国の人々には、常にオープンマインドで接し、その人から知識を吸収したいと思っています。日本に来るのは二度目でしたが、この5週間は他の12カ国からの研修員との交流、日本での講義を通して前回の来日時とは比較にならないほど多くのことを学ぶことができ、大満足でした！

(ラオス産業・商業省 中小企業振興部 中小企業基金課 課長 シュンラモントリ・キングサイ)

研修事業は、 途上国と日本が、 互いに学びあえる場。



モンゴルの研修員とPREX国際交流部 亀田(中央)

国、人口、主要産業・・・違うからこそ学びあえる。

以前、健康・美容関連の製品を開発・販売する株式会社サンパックを訪問し「製品開発と人材育成」についてお話しいただいた際に、ウズベキスタンの研修員が、「ホテルに商品を置いてもらって、気軽に試してもらい、気に入った宿泊客に買えるようにしてはどうか」と提案する場面がありました。訪問先の方が研修員の提案をどう思われるのか、ハラハラしながらも、自由に、自分が考えたことを前向きに発言してくれる様子が、いいなと思いました。

私の中に、PREXは「研修を実施している＝研修員が、訪問先に学ぶ」、というイメージがあったのですが、入局して1年たち、研修員が、訪問先に対して、自分なりに考えたことを提案する場面に出会ううちに、「研修というのは、双方に学びあえる場だ」と思うようになりました。講師や訪問先の方に「日本人にとっては当たり前と思っていることを、研修員から質問されて、改めて考えさせられることが多い。自分の仕事を新しい目で振り返ることができる」と言っていただくこともありました。研修事業は、一方的な援助の場ではなく、途上国と日本が、互いに学びあえる場だと感じています。もっと、研修員と日本の企業の人が対話ができる場、双方にメリットがある場、自分たちの国の良さを改めて考える場にしていきたいです。

(PREX 国際交流部 亀田)

NEWS & TOPICS

今回は「PREXシンポジウム2017」特集。

事務局からのお知らせ

基調講演の松山大耕氏やパネリストの皆様からお聞きした「違い」を「チカラ」に変えた経験をご紹介します。これからも、PREXは研修事業の現場で、国内外の方が「違いに出会う場」を作っていきたいと思います！



13カ国が結集！

JICA中小企業振興のための経営強化・金融支援(A)研修
5月23日(火)～6月23日(金)の5週間、中小企業の発展・振興に従事する行政職員13名が参加しました。左から、アルバニア、アルゼンチン、アルメニア、バングラデシュ、カンボジア、ラオス、マレーシア、モンゴル、ミャンマー、フィリピン、タイ、トルクメニスタン、ベトナムの研修員と、この研修を担当したPREXの原田です。



ベトナム人リーダー 育成研修 参加者募集中

日本企業で働くベトナム人社員が、現地拠点の運営管理や、現場のリーダーとしての役割を担えるよう、外国人の社員には理解しにくい日本企業の経営の根底にある考え方について学べる研修です。

対象：企業のベトナム拠点の管理者、

管理者候補のベトナム社員、あるいは技能実習生

定員：10名

日程：9月28日～10月20日のうち10日間

会場：PREX会議室ほか

使用言語：ベトナム語

詳しくはPREXのホームページをご覧ください。

問い合わせ先：瀬戸口、小林

手ごたえを実感することができました。



JICA先進国市場を対象にした輸出振興/マーケティング戦略研修(A)では、6月29日(木)同志社大学で模擬商談会を開催しました。研修員各国の産品を、様々な分野の専門家の方に紹介し、効果的なPR方法や商品としての魅力アップについてアドバイスを頂きました。写真は、人気があった商材のひとつ、ウズベキスタンの伝統的な織物アドラスです。



ダラーウーラジー！

(また会いましょう！) ※モンゴル語

JICA中小企業振興のための経営強化・金融支援(A)研修最終日、マレーシアの研修員から手作りのお花を受け取ったモンゴルとアルメニアの研修員、お二人とも笑顔が素敵でした。



マレーシアのリチャード・アズラン・アパス氏
Malaysian Directors Academy,
1993年「関経連アセアン経営研修」参加者

企業役員セミナーのご案内

同窓生の所属組織であるMINDAが大阪でセミナーを開催します。そこに日本企業の役員の皆さんにもぜひ参加してもらいたいということです。マレーシア企業役員とともに学び、関係構築の場としても活用ください。

対象：企業の役員(使用言語：英語)

定員：30名

会場：大阪市内のホテル

日程：10月30日、31日、11月1日、2日

参加費：5,600ドル

申込期限：10月13日

主催：マレーシア・ディレクターズ・アカデミー(MINDA)

詳しくは、PREXのホームページをご覧ください。

PREX NOW第244号(2017年9月発行)

編集・発行：公益財団法人 太平洋人材交流センター

専務理事・事務局長 岡本 譲

〒543-0001 大阪市天王寺区上本町8-2-6

大阪国際交流センター2階 TEL. 06-6779-2850

ホームページ：http://www.prex-hrd.or.jp

E-mail：prexhrd-pr@prex-hrd.or.jp

企画制作：ユナイテッド・トゥモロー